

倭文神社のすぐそばを流れる円山川
ここに鮭がのぼってきたと伝えられる



倭文神社と円山川に架かる橋、名前を「鮭ノ宮橋」という



別名鮭ノ宮と呼ばれる倭文神社

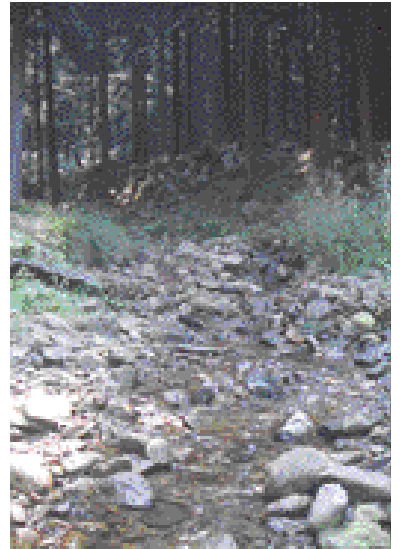


円山川の源流を探せ

とつとつと流れる円山川の源はどこ？
源流めざして日本海から上流へどんどんさかのぼる。



御立山の山中から流れ出している円山川



円山川は朝来郡生野町円山の標高640m、御立山の山中に源を發しています。円山川の名は地名の円山からついたとされ、円山の地名は丸山(649m)という名の山の麓の村という理由でついたといわれています。円山村の歴史は古く平安朝時代の古文書に、その名が刻まれています。

生野の歴史は鉾山なくては語れません。生野の鉾山は大同2年(807)に銀鉾が発見されました。しかし、当時は銀の用途がなく掘られませんでした。

それから700年後、世は戦国時代、鉄砲が伝わり時代は大きく変わっていききました。ヨーロッパから鉄砲を買ったためには、金が銀との交換でしか売ってもらえませんでした。そこで、銀が脚光を浴びはじめます。まず島根県の石見銀山で銀が掘られ、石見の人たちが生野へやってきて銀を掘り

出しました。石見の人たちは島根から日本海を船で豊岡市津居山港まで来て、そこから円山川を船でのぼってきたのでした。円山川の源である生野町円山から御立山へのぼり、銀を掘り出し運びました。

山名氏は、この銀山を領地とするため、御立山に山城を築きました。この時も山名氏の城があった出石から円山川をのぼり、円山の地に拠点を置き城を建てました。このように円山村は円山川からのぼってきた人々の拠点となり栄えていきました。のちに、山名氏は全国の六分の一を治めたことから六分の一殿と呼ばれるようになりしました。

円山村の中心に農業、織物の神様を祀る倭文神社があります。倭文神社は10世紀のはじめ醍醐天皇の御代につくられたとされる歴史の古い神社。正徳3年(1713)、社殿を修造

し遷宮式をおこない、みんなでお祝いをしていると、円山川をめだたい魚である鮭がのぼってきたとか。これはめでたいことだと村人はたいそう喜び、それ以後鮭を食べなくなりました。そして、別名「鮭ノ宮」と呼ばれ親しまれています。

円山川の源流は小さな流れですが、下流に向かって流れるうちに、大屋川、八木川、稲葉川、出石川、奈佐川など95の支流を集めて本流となり、但馬の中央を北上し日本海へ注いでいます。

円山川の源にある生野銀山と円山川は深いつながりがあったことがわかります。交通が現在のように発達していなかった時代、円山川は重要な交通の手段としても活躍し、歴史の一端を担っていたのです。

協力：前生野町史料館館長藤本博さん
国土交通省豊岡工務事務所

11/6 松葉ガニ解禁

11/1 オープン!

よしおか

兵庫県 気比の浜 TEL.0796-28-2614 FAX.0796-28-2566

従業員・パート(接客) 募集中!

忘年会 新年会 予約受付中

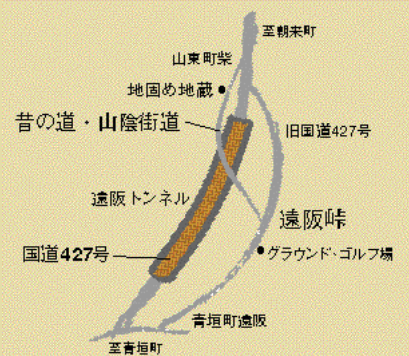
但馬街道



遠阪峠

とおざかとうげ
【山東町～青垣町】

昭和52年、遠阪トンネルは、4年の歳月と80億円の巨費をかけて、25あった急なカーブが直線に生まれ変わった。



当時のトンネル工事のようす



現在の遠阪トンネル



昭和49年7月着工、青垣町側入口



山東町栗鹿山の嶺々の谷間をぬって、昔の山陰街道が通じている。丹波と但馬の国境、遠阪峠は古来から交通の要所であった。峠を

はさんで古代の道の駅である佐治の駅（青垣町）・粟鹿の駅（山東町）が設けられ、その重要性が知られていた。

現在は国道427号線となり、交通の要所となっている。遠阪峠にできた

人々が歩いてきたころ、峠にはたくさん茶屋があったという。今は時の流れとともに、一軒また一軒となくなり、山東町側に残った一軒の茶屋も昭和11年に柴におりてしまった。



山陰道の通っていた山東町柴、昔は宿場町として栄えた

遠阪峠の登り口にある「地固め地蔵」には、国造りの伝説が残っている。昔但馬は一面の泥海だった。但馬五社（粟鹿神社、養父神社、出石神社、小田井神社、絹巻神社）の神々が集まり、瀬戸の津居山を切り開き、但馬の地をつくられた。ところ

遠阪トンネルは、昭和52年5月完成し、有料道路となった。昔の人々は佐治から栗鹿まで一日行程であった難所も、わずかな数分で結ばれることになり、まさに画期的なことであった。トンネルができる前の旧国道427号線は、2年の歳月をかけて昭和44年4月に完成。現在は、遠阪トンネルを挟む青垣町・山東町において、北近畿豊岡自動車道の整備が進み、国道427号に代わる新たな幹線道路が生まれようとしている。

また、柴には旅人のための宿が多くあり、宿場町として栄えていたというが、今は一軒も残っていない。しかし「かき、きくや」「やとや」「堂の下」などの屋号が今も使われ、当時の面影を残している。



「地固め地蔵」より遠阪峠へ続く道

がどうしても乾ききらない。神々は見国岳ともいわれる栗鹿山の山頂に集まり、但馬全域にわたって大きな梵字を書き、その要所の六十六カ所に「地固め地蔵」としてお地蔵さんを祀ったという。そのおかげで但馬の地は乾き、今のようにな豊かな国が生まれたと伝えられている。



「地固め地蔵」

また、この地蔵は、但馬地蔵巡礼六十六カ所の四十番目の札所となっていて、詠歌に「柴原をわけゆく我ものちの世は 頼む地蔵の姿おがむよ」と詠われている。旅人は旅の安全を祈ったのかも知れない。協力：山東町教育委員会

但馬ビーフ

特選但馬牛焼肉用 1kg 12,000円
ももあみ焼 6,000円

特選但馬サーロインステーキ 5枚入り 1枚約300g 15,000円
3枚入り 1枚約300g 10,000円

みかたや